

Japan Patent Office
Patent Publication Gazette

Patent Publication No.

50-22459

Date of Publication:

July 31, 1975

(5 pages in all)

Title of the Invention:

Athletic Shoe for Foot with High Instep

Patent Appln. No.

45-42822

Filing Date:

May 20, 1970

Inventor(s):

Thomas M. Adams

Applicant(s):

Thomas M. Adams

⑤ Int - Cl².

A 43 B 23/00
A 43 B 5/10

⑤2 日本分類

122 B 41
122 A 06J

①9 日本国特許庁

①1 特許出願公告

昭50-22459

特 許 公 報

④4 公告 昭和50年(1975)7月31日

庁内整理番号 2113-37

発明の数 2

(全 5 頁)

1

⑤4 甲高足用運動靴

②1 特 願 昭45-42822

②2 出 願 昭45(1970)5月20日

②3 発 明 者 出願人に同じ

②4 出 願 人 トーマス・エム・アダムス
アメリカ合衆国テキサス州オース
チン・イースト・フオーティ・ナ
インス・ストリート709

②4 代 理 人 弁理士 熊倉巖 外1名

図面の簡単な説明

第1図は、テニス用の型式のひもで締めるズツク製の運動靴の斜め上面図であつて、この靴の上部および下部わく革部分がV型の裂目でわかれて

いるこの発明の一実施例を示す。
第2図は、テニス用の型のひもで締めるズツク製の運動靴の斜め上面図であつて、この発明の第二実施例を示す。

発明の詳細な説明

本発明は、テニスをするとき、習慣的に着用するズツク製の運動靴の型式のようなはきものの改良に関する。さらに、この発明は、確実に甲高の人にびつたり合う靴を作り、同時に、運動競技に使用するのに十分はき心地がよくて、着用者が滑らない靴を提供する方法に関する。

テニスをするときには、スピードまたはバランスの不必要な損失を防ぎかつプレーヤーが突然向きを変えるとき滑らないようにするために、びつたりと合う非常にはき心地のよい靴が要求される。このようにびつたり合うようにするために、甲高の人は不必要な苦痛をひき起こす程にまで靴をしつかりと締めるか、または靴をもつとゆるくはいて敏捷なフットワークのいる競技のプレイにおいてある程度技能を犠牲にすることを余儀なくされる。これまで、種々の整形靴が人間の足の奇形を補正し、抱持するために設計された。しかしこれ

2

らは、自然状態における矯正であつて、運動競技に使用するために設計されたものまたはそれによく適したものではなかつた。

フットボール、陸上競技およびスキーに使用するような特殊靴が、それを足によりしつかりと保持するために設計された。さらに、他の特別に設計された靴がくじけた足首または足の他の部分に余分のささえを与える。しかし、これらはすべて、高い甲の苦痛をやわらげるよりむしろその苦痛を助長する余分の締め具または詰物を含んでいる。

したがつて、本発明の一つの目的は、甲高の人がはくことができ、しかもなお着用者がテニスおよび敏速な運動競技を行なうことができるように足に十分しつかりと適合する低い腰皮の大衆向き

の型の運動靴を設計することである。
本発明の別の目的は、靴につぎの二つの締付区域を設けることによつて、甲高の運動家の足にしつかり適合し自由な活動が可能である運動靴を提供することである。すなわち、その二つの締付区域の第一は、しつかり合わせるために締めることの出来る区域であり、第二は着用者ののはき心地をよくしたいという要求に応じて別に締めることのできる、甲の上の靴上部を縛りまたは締める別の手段である。

本発明のさらに別の目的は、この発明を慣用的な運動靴製造方法に適用でき、したがつてその改良が標準的な製造技術における最小の変更のみでそして最小のコストで行なえるようにすることである。

本発明の別の目的は、甲高の人が困難なく種々の活動を行なうことが出来るように、靴を他の運動および他の靴の型に適するようにすることである。

本発明のこれらのおよびその他の目的ならびに利点は、添付図面を参照しつつ述べる以下の説明および特許請求の範囲から明らかにならう。

図示しかつ本明細書に記述した本発明の好まし

3

い実施例においては、説明を明瞭にするために、特定の用語および構成部材を用いている。しかしながら、これは、本発明を、本明細書に開示する特定の形式、構成部分または構造のみに限定することを意図するものではない。また、本実施例において使用する特定の用語は、同様の目的を達成するために同様のやり方で動作するすべての機械的な均等物を含むものであるということを理解すべきである。

添付図面で説明するために選んだ本発明の特定の実施例に言及すると、この靴は基本的には、現在確立されている低腰皮のズック製運動靴の製造のやり方および型に従って構成される。第1および第2図に図解した形の異なる二つの靴は、任意の適当な材料で作った（しかし通常テニスおよび運動靴の靴底はゴム製であり摩擦面を備えている）基本的または標準的なくつ底11を有している。また前記各靴は、つま先12および必要な場合に靴底11の前縁に沿ってつま先防護13を備えている。従来形式の舌状部21がつま先12から上方に伸びている。またこの靴には、従来のかかと22と一緒になった左右の側部腰革14および14を備えている。前記側部腰革は、普通のまたは標準の技術により従来型式のやり方で、前記靴底にはり付けられるものであつて、その側部腰革または側部の前部は舌状部21をおおうのに適し、前記靴をはく人の足の甲および前部をおおうのに適するようになってい

る。前記靴の前記側部腰革または側部の、足の弓形部を覆う前部は、ここではわく革部分として言及される。本発明によつて明らかにされた運動靴の場合には、前記わく革部分は、つま先が足の前端と接合する足の部分をおおう前部または下部わく革部分16-16と上部わく革部分17-17とにわかれる。ひも穴15が、左側のわく革部分上のひも穴が右側のわく革部分上のひも穴の反対側に来るように、前記上部および下部わく革の内側縁に沿って設けてある。下部わく革部分16-16は、靴が着用者の足の前部およびつま先部分にしっかりと敷まり、かつその形通りになるようにするために、下部ひも19によつてしっかりと締められる。足の弓形部をおおう上部わく革部分17-17は、別のひも20を備えており、上部わく革部分17-17の堅さまたはゆるさは足のつま

4

先および前部を横切る靴の堅さに影響しないから着用者の楽にしろい要求に応じてそのひもを締めることができる。

第1図に示すように、靴のわく革部分の分割部分は、わく革の各側上にあるV型スリットまたは開口18によつて下部わく革部分16および上部わく革部分17にわかれる。

第2図は、本発明の別の実施例を示す。この場合において、下部わく革部分16および上部わく革部分17は、完全に離れた片にわかれ、それらの片は、下部わく革片の上部27をおおうのに適した上部わく革部分片17の部分26で重なる。第1図に示す靴の場合のように、二つのわく革部分は着用者の便宜のために別々のひも19および20によつて締めることができる。第2図に示す靴は、より小ざれいな外観の靴を提供するということがわかるであろう。

製造者が、この発明を、甲高の人の幾分さらに儀礼的な靴に適用したいと思う場合にはここに記述した、または特許請求の範囲に記載した発明の精神から離れることなしに、V型開口18を弾性あて皮または他の装飾手段でふさいで、別の締付手段によつて靴のわく革部分の上下わく革部分に分かれているのを隠すことができる。

この靴は、もちろん、普通の内張り、柔らかい内部靴底23および特殊な型の靴で普通のまたは望まれる付加的な造作で仕上げる必要がある。

使用の際には、足を靴の中に入れる。それから下部のひもを、足の下部を靴中にしっかりと締め、しかもわずかに動けるように出来る程度に締める。それから、上部のひもを締める。しかしそれは足の下部を締めるのに使用するひもよりゆるくすることが出来る。こうして普通の靴で受けるような通常の圧迫を足の甲にかけないように出来る。足を曲げるとき、わく革の分割部分は、もし靴が緊張点で破れなければ、普通は応力を受ける足の甲のみならず他の部分から緊張を除く。

運動靴のわく革部分を上下わく革部分に分割することから生じる種々の利点はここに示すようなものである。この靴は、着用者が足の甲の上の靴の部分を縛る必要がなく、はき心地よくびつたりはくために靴の前またはつま先を別々にしっかりと締めることができるようにすることによつて、少くとも甲高の人が運動靴を足のつま先および前面に

5

びつたり合うように十分しつかり縛ることができ
また、着用者は、テニスを含む多数の運動で必要
な突然の停止または方向転換をするとき滑べらな
いようにできる。

したがって、この改良した靴によれば、甲高の 5
人々は、いままでできなかった程度にまで、敏捷
な迅速なフットワークのいる競技を行なうことが
できる。

二つの離れた結ぶまたは締める部分を設けるこ
とによつて、この発明は甲高の人々に、多くの活 10
動的な運動に必要なつま先部分におけるびつたり
した適合状態を犠牲にすることなく着用者がはき
心地よい程度に足の甲の上を締めることができる
運動靴を提供する。この靴によつて甲高の人々は
種々の活動ができるようになり、そしてそれは他 15
の目的や用途にも適する。

さらに別の利点は、ここに記述した改良靴の目
的が、低い腰皮靴において確立したスタイルと両
立しかつ根本的な刷新なしに礼装用靴または半礼
装用靴に合わせ得る変更で達成されるという事実 20
にある。

さらに、この発明は靴製造の慣用的な技術と十
分両立するものであつて、したがって標準の製造
技術を単に少し変更するだけでよく、またこの提
案された改良靴を製造するのに最小のコストを要 25
するのみである。

この明細書では、一定の用途を有するこの発明
の一つの実施例のみについて記述しているがこの
発明の精神および範囲から離れることなく、相応
するまたは均等な部分の構造的または材料的な配 30
置替え、均等な作用の要素の置換、および構造の
他の変更をすることができ、また他の用途が考え
られる。したがって、図示しかつ説明した上記実
施例は単に例として示したものであつて、本発明
は、下記の特許請求の範囲によつてのみ限定され 35
るものであることを理解されたい。

本発明の態様は下記の通りである。

(1) 甲高の人々のための特別の構造の低い腰革の
靴であつて、

- A. 普通のテニス靴の型の靴底、
- B. つま先部分、
- C. 下記の部分にわかれる、前記靴底の上側に
付着してある低い腰革型の側部および前記側
部の前部、

6

- (a) 下部わく革部分、
- (b) 上部わく革部分、および
- (c) 前記上部および下部わく革部分間のV型
の開口

- D. 前記下部わく革部分のための別のひも、
- E. 前記上部わく革部分のための別のひも、
- F. 前記靴ひもを通す、前記下部および上部わ
く革部分の内側の縁にそつたひも穴、
- G. 足の前部をおおい、前記側部の前部が部分
的に重なるのに適した前方舌状態、
- H. 一緒になつて普通のかかと部分を形成する、
前記上部わく革部分の後端部分、および
- I. 普通の中底および内張材料での仕上げ、を
有する前記靴

15 (2) 甲高の人々のための特別の構造の低い腰革の
靴であつて、

- A. 普通のテニス靴の型の靴底、
- B. つま先部分、
- C. 下記の部分にわかれる、前記靴底の上側に
付着してある低い腰革型の側部および前記側
部の前部、

- (a) 下部わく革部分
- (b) 下部わく革部分の上部をおおうのに適し
たパネルの形態の上部わく革部分、
- D. 前記下部わく革部分のための別のひも、
- E. 前記上部わく革部分のための別のひも、
- F. 前記靴ひもを通す、前記下部および上部わ
く革部分の内側の縁にそつたひも穴、
- G. 足の前部をおおい、前記側部の前部が部分
的に重なるのに適した前方舌状部
- H. 一緒になつて普通のかかと部分を形成する、
前記上部わく革部分の後端部分、および
- I. 普通の中底および内張り材料での仕上げ、
を有する前記靴

35 (3) 甲高の人々のための改良した半ば治療用の低
い腰革の靴において

- A. 普通の中底および内張り材料およびひも穴
を有する、普通の靴底、つま先、側部、腰革、
かかとおよび舌状部、を有し、
- B. 前記改良は前記側部腰革の前部を、
 - (a) 前記側部腰革の離れた下部わく革部分、
 - (b) 前記側部腰革の離れた上部わく革部分、
 - (c) 前記下部わく革をしつかり締めることが
できるように、前記側部腰革の下部わく革

7

部分のための別にひもで締める手段、および

- (d) 前記上部わく革部分を着用者のはき心地のよい程度に別にひもで締めることができきように、前記側部腰革の上部わく革部分のための別にひもで締める手段、に分けることからなる、前記改良した靴

- (4) 前記靴の前記上部および下部わく革部分がV型のスリットによつていているということ以外は実施態様(3)記載の通りの、甲高の人々のための改良した半ば治療用の靴 10

- (5) 下記の点以外は実施態様(3)記載の通りの、甲高の人々のための改良した半ば治療用の靴

- A. 前記靴の前記腰革の前記離れた上部わく革部分はパネルの形態をしており、 15
B. そのパネルは前記下部わく革部分の上端を部分点におおつていているという点。

⑤特許請求の範囲

- 1 甲高の人々のための特別の構造の低い腰革スタイルの運動靴であつて、 20

- A. 普通のテニス靴の型の靴底と、
B. つま先部分と、
C. 前記靴底の上側に取付けられた低い腰革スタイルの側部の後方部分および(1)下部わく革部分と、(2)上部わく革部分とを有し且つ、(3) 25
前記上部および下部わく革部分間のほぼ中ほどに内側の縁にV型の開口が設けられた側部の前方部分と、

- D. 前記下部わく革部分のためのひもと、
E. 前記上部わく革部分のための別のひもと、 30
F. 前記靴ひもが通される、前記下部および上部わく革部分の内側の縁に沿つたひも穴と、
G. 足の前部をおおい、前記側部の前方部分が

8

部分的に重なるようになつていている前方舌状部とから成り、

- H. 前記上部わく革部分の後端部分が、一緒になつて普通のかかと部分を形成しており

- I. 普通の中底および内張り材料で仕上げられて成る運動靴。

- 2 甲高の人々のための特別の構造の低い腰革スタイルの運動靴であつて、

- A. 普通のテニス靴の型の靴底と、

- B. つま先部分と、

- C. 前記靴底の上側に取付けられた低い腰革スタイルの側部の後方部分および(1)下部わく革部分と、(2)パネル形態に作られ且つ下部わく革部分の上部をおおうようになつていている上部わく革部分とが前方部分のほぼ中ほどで巾方向に分けられている側部の前方部分と、

- D. 前記下部わく革部分のためのひもと、

- E. 前記上部わく革部分のための別のひもと、

- F. 前部靴ひもが通される、前記下部および上部わく革部分の内側の縁に沿つたひも穴と、

- G. 足の前部をおおい、前記側部の前部が部分的に重なるようになつていている前方舌状部とからなり、

- H. 前記上部わく革部分の後端が一緒になつて普通のかかと部分を形成しており、

- I. 普通の中底および内張り材料で仕上げられて成る運動靴。

⑤引用文献

実 公 昭3-12207

実 公 昭25-2673

FIG. 1

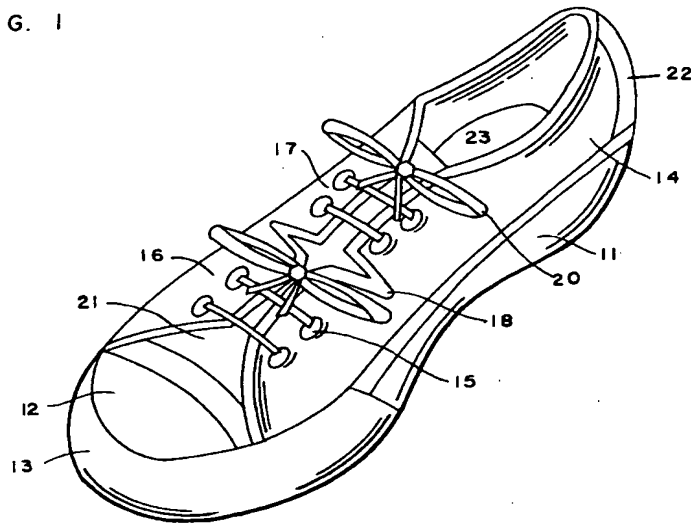


FIG. 2

